

平成 25 年度

財団法人いわき市教育文化事業団決算書

(抜粋)

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事業報告書	1
・ 決算報告書	13

事業報告書

目 次

	ページ
I 概 況	
1 総括事項 -----	3
2 議決事項 -----	6
II 業 務	
1 文化財部門	
(1) 文化財発掘調査 -----	7
(2) 埋蔵文化財啓発活動 -----	7
2 施設部門	
(1) いわき市アンモナイトセンター -----	8
(2) いわき市考古資料館 -----	8
(3) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家 -----	9
(4) いわき市暮らしの伝承郷 -----	10
(5) いわき市生涯学習プラザ -----	11
(6) 福島県いわき海浜自然の家 -----	11
3 役員に関する事項 -----	12
4 職員に関する事項	
(1) 事務局 -----	12
(2) 施設 -----	12

I 概 況

1 総括事項

平成25年度は、公益財団法人への移行最終年度であることから、その認定を受けるために、さまざまな整備を進めてまいりました。その結果、平成25年12月25日付にて、福島県公益認定等審議会より「認定の基準に適合すると認めるのが相当である。」との答申を受けました。しかし、法律上答申後2週間以内に登記を完了しなければならないことから、同年12月27日付「移行認定日延長申立書」を提出しまして、平成26年3月19日付、「公益財団法人認定書」をいただきました。こうして同年3月27日付、公益財団法人設立登記申請書を法務局へ提出し、次年度から「公益財団法人いわき市教育文化事業団」として、新たに歴史的な一歩を踏み出すこととなりました。

平成25年度は、東日本大震災後3年目を迎え、復興の加速化が進められた年度でもあります。その復興に伴う埋蔵文化財発掘調査の事業量増加とアンモナイトセンター・考古資料館・市立草野心平記念文学館と生家・暮らしの伝承郷・海浜自然の家など6施設の5年間指定管理継続、そして、生涯学習プラザの1年間指定管理継続等により、安定的な収入源の確保と経費節減により、約1,000万円の黒字決算となりました。これからも経営の健全化をはかるため、役職員一丸となって努力して参りたいと存じます。

また、平成25年度は創立35周年という節目の年にあたり、平成26年2月17日(月)には記念式典(いわきワシントンホテル椿山荘)、同年3月2日(日)には谷川俊太郎先生を招聘して記念講演会「言葉の未来」を開催しました。

文化財調査部門においては、いわき市の震災復興にかかる区画整理事業及び民間による宅地造成事業などに遅滞が生じないように、現地発掘調査を優先し、最終的には昨年度より3件少ない22事業(試掘調査2件、本調査9件、遺物整理・報告書作成10件、他市町村遺物整理1件)を受託実施しました。これら本調査の成果のなかで、専称寺境域(本堂)の発掘調査が特筆されます。また、報告書は6冊刊行しました。

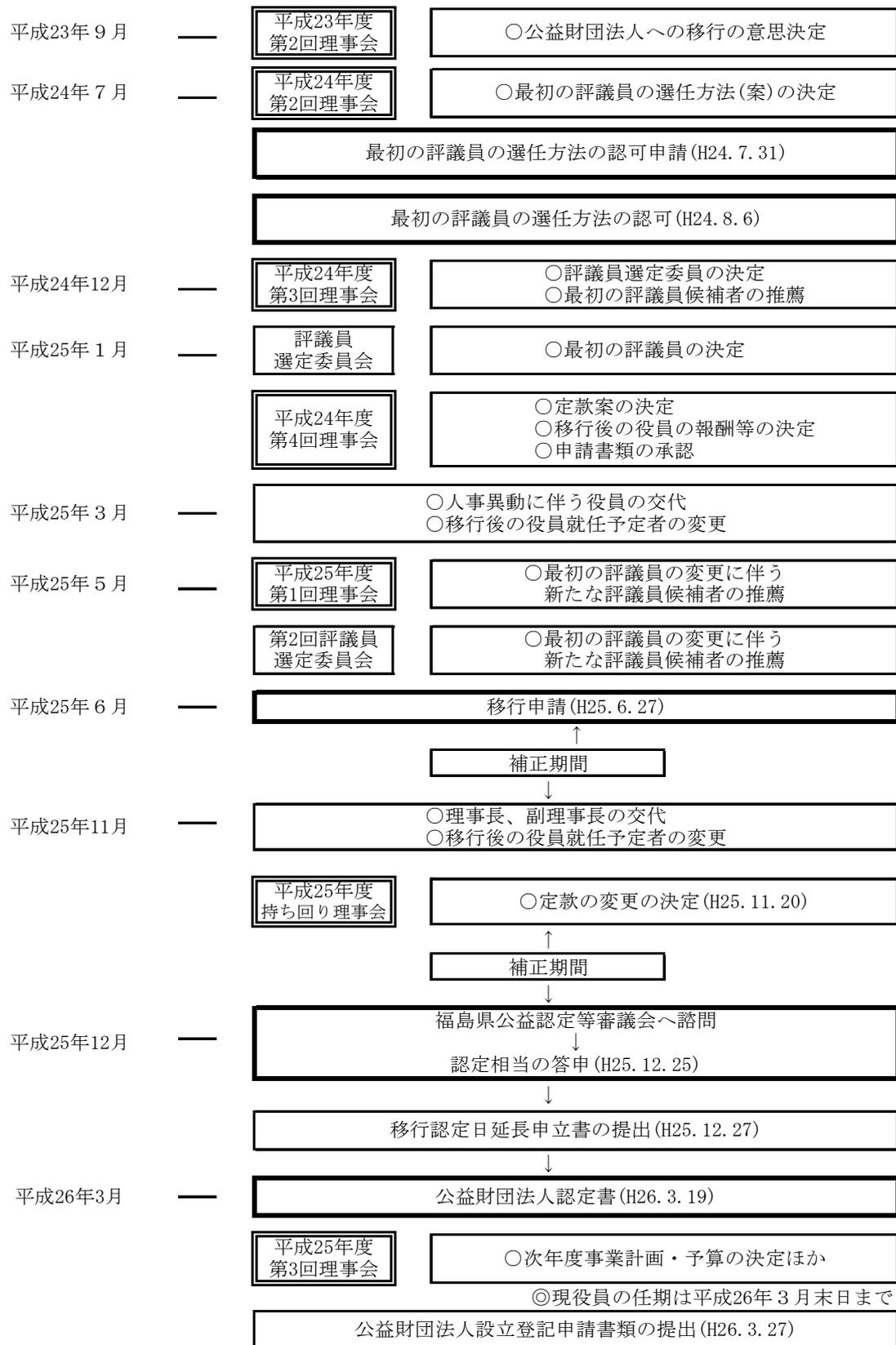
施設管理部門においては、まだまだ風評被害が根強く見られるところもありますが、概ね震災前の利用状況に戻りつつあります。いわき市並びに福島県の教育・文化および社会教育・生涯学習施設として、震災復興のためにそれぞれの施設の特徴を生かした事業や体験学習、そして種々の連携事業など、市・県民の目線にたって、何ができるかを常に考えながら、施設の管理と運営にあたって参りました。

いわき市アンモナイトセンター(利用者数8,295名、平成22年度17,831名の47%)は、ゴールデンウィーク期間中には震災前ほどではありませんでしたが、多くの体験者が訪れ、化石体験発掘を楽しむ光景が見られました。

また、震災後の平成23年11月に福島県から委託を受けたいわき海浜自然の家(利用者数29,323名、平成22年度66,611名の44%)は、主要な野外施設(ロッジを含む野営場・多目的広場・アスレチックコース・冒険の森コース)が震災による崩落や年間1ミリシーベルト未満という放射線量の規制によって、一部使用再開できない状況が続いています。海浜活動は6月に磯遊びや砂遊びなどの一部を再開しましたが、いかだ遊びやカヤックなどの本格的な活動は制限されています。

他の5施設では、震災前より利用者数が増加ないしはさほど変わらない状況が窺われます。これまで

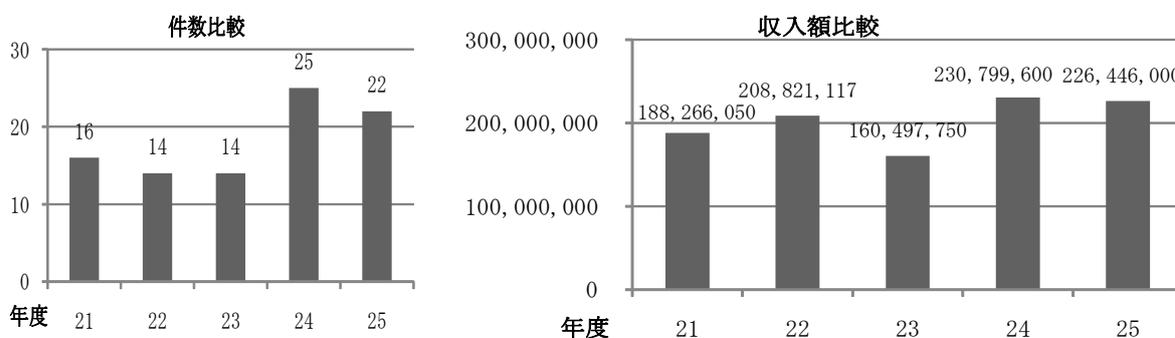
○ 公益財団法人への移行の経過



※公益財団法人設立

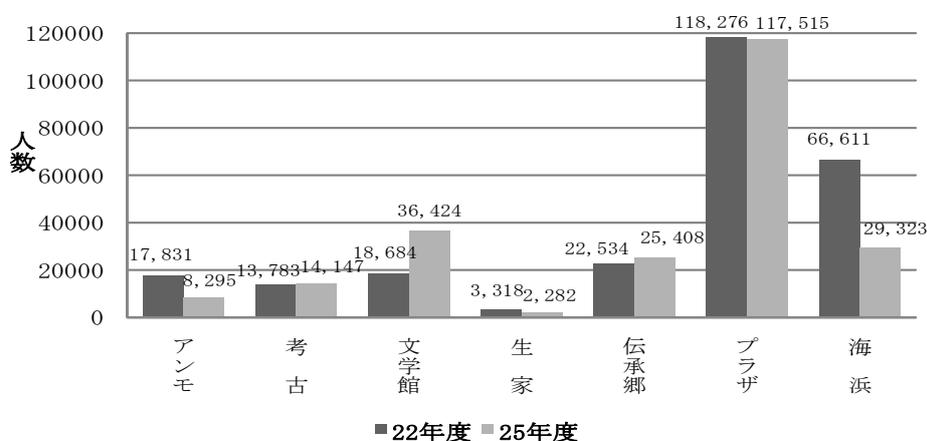
○ 埋蔵文化財契約件数と収入額の年度別比較（21～25年度）

21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
16件	14件	14件	25件	22件
188,266,050円	208,821,117円	160,497,750円	230,799,600円	226,446,000円



○ 施設年間利用者数比較（22・25年度）

	アンモ	考古	文学館	生家	伝承郷	プラザ	海浜
22年度	17,831	13,783	18,684	3,318	22,534	118,276	66,611
25年度	8,295	14,147	36,424	2,282	25,408	117,515	29,323



の広報活動や企画展、連携事業の成果も認められますが、やはり室内・外の施設と野外体験施設、そして福島第一原発との距離関係が利用者増減の大きな要因と考えられます。

出版事業は、有償頒布図書として2冊を追加し、既刊出版物とともに販売いたしました。

普及活用事業は、当財団職員の有する専門性をアピールするとともに、専門的知識を有償提供し収益を図る目的で講座の講師などを行うもので、公民館を中心に7講座19回開催しました。

研修は、質の高い専門性とサービスの確保、接遇の向上、安全・安心な施設及び労働環境の確保を目的に、当財団独自の研修を開催するとともに、関係機関の研修にも積極的に参加しました。

啓発広報事業として久之浜条里跡・小原遺跡・専称寺境域の現地説明会に協力するとともに、「文化財ニュースいわき」第70号～第72号を刊行しました。

2 議 決 事 項

理事会	議案番号	件 名	提 出 年 月 日	議 決 年 月 日
第1回	第1号	平成24年度決算の認定について	平成25年5月21日	平成25年5月21日
専 決	第1号	平成25年度収支補正予算について	平成25年7月5日	平成25年7月5日
専 決	第2号	平成25年度収支補正予算について	平成25年9月3日	平成25年9月3日
持ち回り	第1号	公益財団法人移行認定のための 「定款の変更の案」の同意を求め ることについて	平成25年11月20日	平成25年11月20日
第2回	第1号 第2号	平成25年度業務中間報告について 公益財団法人への移行について	平成25年12月24日	平成25年12月24日
専 決	第3号	平成25年度収支補正予算について	平成26年2月21日	平成26年2月21日
第3回	第1号 第2号 第3号 第4号 第5号 第6号 第7号 第8号	平成26年度事業計画及び収支予算 について 庶務規程の改正について 業務情報開示・個人情報保護審査 会規程の改正について 就業規則の改正について 定年退職者の再雇用に関する規程 の改正について 報酬、給与、退職手当及び旅費等 に関する規程の改正について 会計規程の改正について 名称変更にかかる諸規定の改正に ついて	平成26年3月19日	平成26年3月19日

II 業 務

1 文化財部門

(1) 文化財発掘調査

平成25年度に受託した事業は22件です。事業内訳は、いわき市内の本調査9件(遺物整理含む)、試掘調査2件、遺物整理報告書作成10件の21事業です。他市町村では、遺物整理1件の事業です。ただし、これら22事業のうち、特に市の復興交付金事業の中で現地の条件整備が整わない遺跡や市内の緊急試掘調査を優先したことにより整理業務を中断したことなどから、9件の事業が平成26年度へ繰越となりました。

本発掘調査等における主な成果としては、専称寺境域(本堂)の調査の結果、火災の跡から出土した陶磁器の年代や土層の堆積状況などから、現本堂が江戸時代中期の再建であることが判明し、関連する文献の記録と一致したことが特筆されます。

埋蔵文化財発掘調査報告書は6冊を刊行しました。

(2) 埋蔵文化財啓発活動

No.	実施月日	実施項目	内 容
1	平成25年9月18日(水) ～同 11月18日(月)	「平成24年度発掘調査速報展」	いわき市考古資料館と共催して平成24年度に発掘調査、試掘調査、報告書刊行した遺跡を写真パネルを中心に解説、展示。 「文化財ニュースいわき」第69号を発行し市民に配布した。入館者1,882名
2	平成25年10月19日(土)	平成24年度発掘調査速報展関連事業「遺跡報告会」	発掘調査担当職員による調査成果の説明を行った。参加者24名
3	平成25年10月12日(土)	久之浜条里跡現地説明会	検出した奈良時代の竪穴住居跡4棟、中世の掘立柱建物跡を3棟と、出土した土師器や縄文土器や弥生土器などの遺物とともに担当職員が説明を行った。 「文化財ニュースいわき」第70号を発行し参加者に配布。参加者180名
4	平成25年11月9日(土)	小原遺跡現地説明会	2棟の縄文時代早期の竪穴住居跡や焼成遺構、落とし穴などを中心に担当職員が説明を行った。 「文化財ニュースいわき」第71号を発行し参加者に配布。参加者46名
5	平成25年12月21日(土)	専称寺境域(本堂)現地説明会	火災の痕跡から出土した陶磁器は江戸時代のものであり、文献が示す通り同時代に火災があったことが考古学の側面からも裏付けられた。 「文化財ニュースいわき」第72号を発行し参加者に配布。参加者60名

2 施設部門

(1) いわき市アンモナイトセンター

平成25年度の入館者総数は、8,295名で昨年度比5,385名の増となった。東日本大震災における原発事故の風評が落ち着き、再開した体験発掘事業も軌道に乗り来館者が漸増している。

また、自然探訪教室の代替事業として実施してきた「親子発掘教室」では、12回264名の参加を得ることができた。当センターの主要事業である体験発掘については、露頭の整備が進んでいないこともあり、参加人数を把握するため予約制をとって実施した。

教育機関・団体を対象とした特別体験発掘が再開され、26団体944名の参加があった。県内中通り地域の学校及び関東圏の団体が多く見られたことは、明るい材料である。しかし一方で、いわき市内の小学校利用が伸び悩んでおり、放射線への不安が完全に払拭できていない状況がうかがわれる。

体験向けの新たなプログラムとして、本物の化石を埋め込んだ化石クリーニング体験キットを開発し、どこでも手軽に発掘・クリーニング体験ができるツールとして、各種イベントや企画展での体験コーナーで活用した。

小中学校の夏・冬休み期間に合わせた各企画展は、夏休み企画展「こんな化石が見つかる」は2,526名で昨年度比1,898名の増、冬休み企画展「化石を見て体験しよう」は407名で昨年度比206名の増であった。

公開シンポジウム（講演会）は、平成16年度から当センターが立地する双葉層群（化石）への理解を目的として実施してきた。さらに同20年度からは、久之浜地区の「小中学校連携推進事業」として会場を久之浜中学校に地学や化石に関する教育課程がある小学6年生と中学1年生が出席して開催されている。平成25年度は、講演者に茨城キリスト教大学の梶田泰孝准教授を迎え、「化石愛好家が見た、いわきとアンモナイトセンターの魅力」の内容で講演を実施した。

(2) いわき市考古資料館

平成25年度は、利用者総数14,147名と前年度比2,498名の増となり、平成22年度の14,053名を94名越える開館以来最も多くの利用者数となった。内訳は、入館者が前年度比2,423名増の13,211名で、出前講座などの館外利用者が前年度比75名増の936名となった。利用者的大幅増は、2月16日から3月1日の間に阪急交通社の関東圏からのバスツアーで延べ12日、54台、2,299名来館したことが大きな要因としてあげられる。

企画展は3回開催した。3回の企画展で、前年度比2,842名増の10,571名となった。このほか、ミニ企画展1回、特別展1回を開催した。第1回企画展は、貝塚を通して有史以来の危機にあるいわきの水産資源について考えた。第2回企画展は、復興などに伴い数多く行われた調査成果をいち早く公開した。第3回企画展は、市内所在の指定文化財の周知と文化財の保護思想の啓発に大いに貢献することができた。

講座・講演会は、「自由研究に挑戦しよう」、「ボランティア養成講座」及び企画展に合わせた講座や講演会を含め7回開催した。震災後、国史跡中田横穴の一般公開が中断されており、当館が講座として開催している「中田横穴青空講座」も前年度に引き続き中止とした。

体験学習会は、キッズミュージアムを含め前年度と同じく6回20日間開催し、1,079名が勾玉づくり、埴輪づくりなどを体験した。新たに「拓本の葉づくり」をプログラムに加えた。

団体入館者は、バスツアーにより前年度比で11件2,387名増の71件4,404名となった。

資料の調査や貸出、資料の鑑定、問い合わせの対応なども当館の重要な業務にひとつであり、それぞれ対応した。また、8月には2名の学生を対象とした学芸員実習を実施した。

緊急雇用創出基金事業として、いわき市石炭化石館収蔵化石資料の整理・登録事業を実施した。

建物や備品の経年劣化などに起因すると考えられる館北壁側からの雨漏り、蛍光灯安定器の故障などが頻発しており、所管課と協議の上、可能なものについては随時修理・修繕を行い施設の維持・管理に努めた。また、受付及び事務室とロビーの区画パネルの改修を行った。

このほか、各種研修へ職員を参加させ、接遇などの向上に努めた。また、ホームページは事業案内及び経過報告などを随時更新掲載し、内容の充実に努めた。

(3) いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

いわき市立草野心平記念文学館

年間入館者は36,424名で、昨年比21,729名の増となり、年間開館日数は310日間だった。

平成25年度は、春、夏、秋、冬と4つの企画展を開催した。

春の企画展「草野心平の詩 恋愛編」は、昨年度の「草野心平の愛した動物たち」に引き続き、心平の作品世界を新たな視点で展覧することを目的に開催した。展示では、心平の青年期の恋への憧れと詩作の関係から、恋愛を主題にした詩、蛙を主題として恋愛模様を描いた詩などを紹介。来館者は恋愛という身近な感情をとおして心平の作品の魅力にふれていた。

夏の企画展「みんなだいすきアンパンマン やなせたかしの世界展」は、アンパンマンをはじめとした絵本、詩、随筆など広く親しまれているやなせたかしの作品を展覧し、中でも東日本大震災を経験した子どもたちに元気と希望を与えるきっかけとするために開催した。困難に立ち向かう勇気や他人を助ける優しさなどに満ちた作品はもとより、震災をきっかけに創作活動の続行を決意し、被災者に向けて書かれた励ましの一文なども紹介した。

秋の企画展「サイデンステッカー カエル・コレクション展」では、「源氏物語」や川端康成作品の英訳で知られる日本文学研究者であるエドワード・G・サイデンステッカーが蒐集したカエル約180点を展示し、サイデンステッカーの仕事を紹介したほか、草野心平の蛙詩篇を「立派にカエルのコレクションとなっている」と評したサイデンステッカーと心平の交友を紹介した。

冬の企画展「草野心平コレクション展」は、草野心平が親しく交友し、それがきっかけで所蔵することとなった朝井閑右衛門、高村光太郎、川端康成、棟方志功らの美術作品を展示し、詩人の私的なコレクションとしての視点から、その関わりと魅力を紹介した。

スポット展示は、会期を約2か月間として開催した。「吉野せい」「猪狩満直」「草野心平 子どもの詩」「三野混沌」「上泉秀信」「草野天平」を開催し、作品を紹介した。

普及活動では、夜間開館時間をはじめ、週末を中心に演奏会などを開催し、文学や芸術にふれる場を提供した。また、企画展や時節にちなんだワークショップなどを開催し、市民の交流の場ともなった。引き続きおはなし会（絵本読み聞かせ）、ギャラリートーク、詩作講座などを開催し、文学により親しみ、創作活動の場にふさわしい事業を展開した。また、小川町の団体と演奏会やフリー

マーケットを共催したのをはじめ、小川中学校吹奏楽部による演奏会など、文学館が立地する小川町住民との連携を図った。

いわき市草野心平生家

平成25年度の入館者数は2,282名で、昨年比185名の増であった。年間開館日数は310日間だった。

例年開催している「心平誕生日の市民朗読会」には、小川小学校・小川中学校の児童・生徒が参加し、ふるさとの詩人を顕彰した。生家ボランティアの会が講師となったワークショップ「カエルの折り紙をつくろう」は、生家ボランティアの会と市民との交流の場ともなった。

(4) いわき市暮らしの伝承郷

平成25年度の入園者数は、25,408名で昨年度より450名の微減となった。来園者数を維持できたのは、第1回「いわきの昔野菜展」、第2回「塩谷美江作品展」と共催展の和布細工「ほのぼの」展が好評だったことにある。

伝承郷の中心的な事業である景観の復元・伝承・管理作業は、平成11年に開園して以来、単なる園内管理に止まらず、昔の暮らしぶりそのものの景観復元と伝承をコンセプトに実施してきたところである。今年度も畑作・里山作り・庭木の手入れ・家屋の日常的な清掃・囲炉裏火焚き・薪作りなど幅広い項目にわたり実施してきた。その方法や扱う道具についても、展示の一環として位置づけて極力昔の方法・道具を取り入れながら行った。

企画展は、第1回「いわきの昔野菜展」、第2回「塩谷美江作品展」、第3回「伝承郷収蔵品展ー民話と民具とおひな様展」、特別展「福島県立美術館移動美術館」の4回開催した。これら企画展開連事業として、それぞれに展示解説会など実施した。

体験学習は、「民話の語り」など、予約無しで気軽に参加できるものや、「ヤマブドウの携帯ケース」や「麦ワラの虫かご」・「竹カゴ作り」など、技術を要するもの、そして昔行われていた年中行事等など、子供から大人までの幅広い年齢層を対象として企画し、通算23回を実施した。さらに学校や子供会などの要望による、「昔遊び」や「昔掃除」・「餅つき」などの臨時体験学習も随時実施して好評を得た。

伝承郷講座は、民俗学講座「民俗学の最先端と『いわき』5回の講話を実施した。

伝承郷行事では、「盆棚飾り」・「こと八日」・「農立て」・「正月飾り」など月々の21の伝統行事を、古式にのっとり作成・展示した。また、「じゃんがら念仏踊り」や「会津万歳」などの伝統芸能の実演を行い、伝統行事の再現と実演による継承と伝承を図った。これらの行事では、来演者のリピートが狙いで、定例化を図っている。

小学生を対象とした「キッズ民話語り部教室」は、子供語り部の養成講座で第20期を迎えた。

市民の文化活動の場として定着した企画展示室の貸出は、通算12回で昨年度より2回増えた。

その他、ガイド等のボランティア研修会、篠笛や琴・ハーモニカによる演奏会、民俗・歴史に関するレファレンス事業や民具の鑑定・収集なども実施した。

また、緊急雇用創出事業として、農村風景復元・伝承事業委託を受託実施した。

(5) いわき市生涯学習プラザ

平成25年度は東日本大震災後の全面開館から2年目を迎え、利用者数は117,515人で、前年度に比べて8,511人の増となった。また、社会教育関係団体の申請件数は1,765件、同団体の登録数は63団体で、ともに前年度と比べて増減はなかった。なお、震災前の申請件数及び登録数には達していない。

主催講座は、前年より2講座増やし26講座を実施した。また、ボランティア活用事業は、子育て支援ボランティアによる「紙しばい・絵本の読み聞かせ」「子どもと遊ぼう」、ITボランティアリーダーによる企画講座を毎月開催するなど、若年層から高齢者まで幅広い年齢層に対応した講座を提供した。さらに、サークルが一般市民を対象として企画したサークル企画講座は、「絵手紙」「朗読はじめの一步」「コーラス体験」「フラワーセラピー」「水墨画体験」を開催し、貴重な体験企画として好評を博した。

全市的な事業として広く市民に浸透しているいわきヒューマンカレッジ(市民大学)は、390名の入学生を迎えて4学部(現代社会学部・教育心理学部・環境再生学部・いわき学部)を開催した。また、9回目となる生涯学習フェスティバルを開催し、前年度より211人増の2,892人の入館者があり、地域住民・商店会等と連携しながら多くの市民へ交流の場を提供することができた。

いわきヒューマンカレッジ、プラザ主催講座や生涯学習フェスティバルの開催にあたっては、いわき市生涯学習支援ボランティアの会の運営支援をいただいた。

これらの事業展開にあたっては、ホームページや「広報いわき」のほかに、講座ごとの案内チラシをとおして情報の発信や提供を行うとともに、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

(6) 福島県いわき海浜自然の家

平成25年度の利用状況は、497団体延べ29,323人を数え、震災前の平成22年度(546団体66,611人)に比して44%ほどであった。社会教育団体の利用は増えたが、学校教育団体の利用は、143団体延べ8,437人(平成22年度は342団体、延べ50,576人)と団体数では半分の回復をみたが、延べ人数では、平成22年度の数値には至らなかった。

震災の影響により海浜活動が出来ない状態が続いていたが、6月から砂の芸術や磯遊び等の海浜活動を一部再開した。

また、野営場崩落現場の災害復旧工事が3月に完了し、平成26年度から多目的広場や野営場、ロッジの共用の開始に向けて環境整備を行った。

春・秋のオープンデーなど、施設の一般開放によって当所の運営状況等を広く県民に周知するとともに、さまざまな企画事業をとおして理解を深めることができた。さらに、閑散期の利用促進として、特別企画事業「健康推進デー」や「クラフトデー」を実施した。

各種事業においては、広報チラシ・ポスターの配付をはじめ、ホームページによる事業案内及び報告等を随時掲載し、広く県民への周知に努めた。

また、内外の各種研修や報告会のほか、接遇研修によって職員の資質向上に努め、県民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

3 役員に関する事項

理事9名、監事2名

区分	年月日	役職名・氏名	備考
退任	平成25年11月11日	理事長 鈴木 英司 副理事長 吉田 浩	
就任	平成25年11月12日	理事長 上遠野 洋一 副理事長 吉田 尚	(いわき市副市長) (いわき市教育長)

※平成26年3月31日付全員任期満了

4 職員に関する事項

平成26年3月31日現在

(1) 事務局

括弧内数字:兼務職員数 単位:名

区分	事務局長 統括学芸員 統括研究員	事務局次長 主任主査	係長 主任研究員	副主任研究員	事務主任 研究員	主事 研究員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
事務局	3	1	—	—	—	—	—	—	4
企画管理係	—	1	—	—	1	—	1	2	5
調査第一係	—	—	1	—	1	—	5	—	7
調査第二係	—	—	2	—	—	—	—	16	18
計	3	2	3	0	2	0	6	18	34

(2) 施設

区分	館長 所長 副館長	次長 副館長 専門学芸員	係長 副所長 主任学芸員	副主任指導員	事務主任	主事 学芸員 指導員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
アンモナイト センター	1	—	1	—	—	—	1	1	4
考古資料館	(1)	—	(3)	—	—	—	(1)	—	(5)
草野心平 記念文学館	2	—	2	—	—	—	—	6	10
暮らしの 伝承郷	1	1	—	—	—	—	—	9	11
生涯学習 プラザ	1	1	1	—	—	1	1	6	11
いわき海浜 自然の家	1	1	—	1	1	1	4	7	16
計	6(1)	3	4(3)	1	1	2	6(1)	29	52(5)

合計	9(1)	5	7(3)	1	3	2	12(1)	47	86(5)
----	------	---	------	---	---	---	-------	----	-------

決 算 報 告 書

目 次

		ページ
1 貸借対照表	-----	1 5
2 正味財産増減計算書	-----	1 6
3 財産目録	-----	1 7

貸借対照表

平成26年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
資産の部			
1 流動資産			
現金預金	232,944,783	177,239,761	55,705,022
未収金	23,442,050	25,813,310	2,371,260
前払金	0	219,279	219,279
未経過通信運搬費	5,080	8,020	2,940
未経過租税公課	1,400	2,800	1,400
製品	80,484	49,762	30,722
流動資産合計	256,473,797	203,332,932	53,140,865
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他の固定資産			0
器具・備品	1,116,308	1,186,899	70,591
電話加入権	449,904	449,904	0
投資有価証券	10,024,540	10,033,780	9,240
その他固定資産合計	11,590,752	11,670,583	79,831
固定資産合計	21,590,752	21,670,583	79,831
資産合計	278,064,549	225,003,515	53,061,034
負債の部			0
1 流動負債			0
未払金	67,917,484	88,449,472	20,531,988
未払消費税	4,614,467	7,647,500	3,033,033
未払法人税等	4,000,000	11,000,000	7,000,000
前受金	75,837,150	0	75,837,150
預り金	1,016,728	3,657,944	2,641,216
流動負債合計	153,385,829	110,754,916	42,630,913
2 固定負債			0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	153,385,829	110,754,916	42,630,913
正味財産の部			0
1 指定正味財産			0
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			0
一般正味財産合計	114,678,720	104,248,599	10,430,121
正味財産合計	124,678,720	114,248,599	10,430,121
負債及び正味財産合計	278,064,549	225,003,515	53,061,034

正味財産増減計算書総括表

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	32,200	32,200	0
事業収益	618,591,840	627,751,950	9,160,110
a 文化財調査事業収益	226,446,000	230,799,600	4,353,600
b 施設管理運営事業収益	391,978,150	396,723,390	4,745,240
c 出版事業収益	52,690	46,460	6,230
d 普及活用事業収益	115,000	182,500	67,500
受取寄付金	0	0	0
雑収益	2,356,255	5,857,443	3,501,188
経常収益計 (ア)	620,980,295	633,641,593	12,661,298
(2) 経常費用			
事業費	577,713,521	577,577,472	136,049
a 文化財調査事業費	209,166,112	199,508,093	9,658,019
b 施設管理運営事業費	368,471,780	378,006,783	9,535,003
c 出版事業費	46,453	45,196	1,257
d 普及活用事業費	29,176	17,400	11,776
管理費	32,836,653	35,550,077	2,713,424
a 一般管理費	29,334,027	34,829,587	5,495,560
b 研修費	886,355	619,690	266,665
c 啓発広報費	2,616,271	100,800	2,515,471
経常費用計 (イ)	610,550,174	613,127,549	2,577,375
当期経常増減額 (ア-イ)	10,430,121	20,514,044	10,083,923
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計 (エ)	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計 (オ)	0	0	0
当期経常外増減額 (エ-オ)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (キ)	10,430,121	20,514,044	10,083,923
一般正味財産期首残高 (ク)	104,248,599	83,734,555	20,514,044
一般正味財産期末残高	114,678,720	104,248,599	10,430,121
指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	32,200	32,200	0
一般正味財産への振替 (カ)	32,200	32,200	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高 (シ)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
正味財産期末残高	124,678,720	114,248,599	10,430,121

財 産 目 録

平成26年 3月31日現在

(単位円)

科 目	金 額	金 額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
小口現金	279,600	
郵便振替		
郡山地方郵便局	905,103	
普通預金	(201,760,080)	
(株)東邦銀行	194,761,469	
(株)東邦銀行	0	
(株)東邦銀行	131,220	
いわき信用組合	4,466,939	
いわき信用組合	2,235,313	
(株)大東銀行	81,360	
(株)福島銀行	83,779	
定期預金	(30,000,000)	
(株)東邦銀行	10,000,000	
(株)大東銀行	10,000,000	
(株)福島銀行	10,000,000	
未収金	23,442,050	
未経過通信運搬費	5,080	
未経過租税公課	1,400	
製品	80,484	
いわき市外文化財調査受託料収入外	23,442,050	
未使用切手	5,080	
未使用収入印紙	1,400	
書籍等	80,484	
流動資産合計		256,473,797
2 固定資産		
(1) 基本財産		
投資有価証券	10,000,000	
利付国債5年	10,000,000	
基本財産合計	10,000,000	
(2) その他の固定資産		
器具・備品	1,116,308	
電話加入権	449,904	
投資有価証券	10,000,000	
利付国債5年	10,000,000	
投資有価証券	24,540	
額面超過購入額未償却額	24,540	
その他の固定資産合計	11,590,752	
固定資産合計		21,590,752
資産合計		278,064,549
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金	1,016,728	
所得税、市県民税、社会保険料外	1,016,728	
前受金	75,837,150	
いわき市文化財調査受託料収入	75,837,150	
未払金	(67,917,484)	
人件費	13,315,835	
物件費	54,601,649	
未払消費税	4,614,467	
未払法人税等	4,000,000	
流動負債合計		153,385,829
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		153,385,829
正味財産		124,678,720